

一月一日

新年おめでとうございます。

日常的には昨日から今日へと何の滞りもなく続く日々ですが、一月一日というのは、日常の日々の連続とは何かしら違う、特別の感があるものです。この元旦の感慨を綴った歌があります。題はそのまま「一月一日」です。

年の始めの例（ためし）とて 終りなき世のめでたさを 松竹立てて門（かど）ごとに 祝う
今日こそ楽しけれ

ともすれば日常の惰性に埋没してしまう人間が、改まった年の始めに生れ変わったように覚悟を新たにする、これが毎年やってくる元旦の効用ではないでしょうか。

我が和道流も九十年の歴史を超えました。流祖に始まり、二代宗家、三代宗家に導かれながら、会員すべてが創流百年への道を歩み続けています。しかしこの道は、ただ歩み続けるだけでは決して到達できない、修行の道なのです。その修行の中で、己の現在を確かめるために全国大会があるのです。和道流の全国大会は、ただ優勝劣敗の勝負を争うだけの場ではありません。修行を通じて昨日の自分に今日は勝てるように励む、これが日本武道の根源的意志でなくてはなりません。

毎年の全国大会に於いて、三代宗家が新しい試みを重ねておられるのも、正にこのすべての会員が己の境地を一步でも二歩でも進め得たか、それを体感してもらうためなのです。百錬自得の心構えで階段を登ろうではありませんか。

和道流空手道連盟会長・三代宗家・最高師範 大塚博紀
理事長 坂巻 明